

「地域課題分野」（平成31年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
アンサンブル気象予測情報の時間変化に着目した洪水管理への利用手法の開発	京都大学 山口 弘誠	A
<研究概要> アンサンブル気象予測情報を用いて、最新の初期値からの予測だけではなく過去からの更新履歴を活用することで、最悪ケースとして想定される降雨量の予測や、いつまで雨が降り続くのかといった洪水管理のためのリアルタイム防災情報を創出した。アンサンブル気象予報に関して、予測が更新されても予測のばらつきが大きくなることをGrowing Forecast Uncertainty (GFU) という指標で定義した。水蒸気のGFU ではかなり早い段階でアンサンブル最大降水予測を超える豪雨が起ることを捉えており、GFU が新たな防災リスク情報となることを明らかにした。		
<事後評価指摘事項> A評価のためコメントなし		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
- B：一定の研究成果があった。
- C：研究成果があったとはいえない。